

第2回さんかく塾

「地域女性史をひもとく～その時女性は何を思ったか～」

講師：滋賀県大学教授 京樂真帆子さん

開催日：8月3日（土）

参加者 65名

滋賀県立大学の京樂真帆子教授の女性史史料の当センターへのご寄贈を受け、史料目録贈呈式ならびに感謝状贈呈式を行った。寄贈史料は、京樂教授がこれまで収集されてきた戦前・戦中の「婦人国防」を中心とした近代の女性史を研究する上で貴重な史料150点で、当センターにて閲覧可能となっており、女性史研究等で活用することができる。



寄贈に伴う基調講演では、史料を基に女性誌の読み解き方や戦時下での女性の思いや考えについてお話しいただいた。国防婦人会の活動を、機関誌「婦人国防」から読み解き、戦争に利用されていた国防婦人会の活動も、史料からひもといていくと、直向きに日々の生活を行い、自己実現を果たそうとしていたということがわかり、女性が地域を支えることに力を注いでいたことがうかがえた。

その後、早田リツ子さんを交えての鼎談では、女性史を学ぶ意義について意見が交わされた。「未来を考える上での答えは過去にある」と女性史を学ぶことがこれからの社会について考える上で大いに参考となることを示していただいた。男女共同参画は進んだかというというテーマに移ると、半分進んで半分進んでいないとの意見が出されました。状況として変わっていない部分もあるが、進んできたという根拠としてジェンダー平等という言葉が当たり前使えるようになってきたことが示された。

